

# 実践記録 シリーズ 92

第56回新潟県公民館大会  
事例発表3

## 地域づくりと公民館 ～まちづくりワークショップを開催して～ 新発田市加治川地区公民館 主事 吉田 雅則

### 【まちづくりワークショップ】

今回紹介する事業は、合併前の平成14年3月から1年間かけて実施した事業です。

#### ●建設課との協働

公民館では、市町村合併を前にして大人を対象とした「地域学」に取り組みたいと考えていました。少ない予算でどのように事業展開をしようかと模索していたところ、建設課から「住民参加による農村振興計画作り」に取り組みることになり、予算はあるがどのように取り組めばよいか」という相談があり、住民主導型の地域づくりをしたいという目的が共通していたため、建設課と公民館が一緒になり、合併前に加治川地域の良さ・個性を見つけ、そして未来像(=農村振興計画)を住民と一緒に考える講座を行うことになりました。しかし、職員だけではプロセスデザインが描けず、以前まちづくりコーディネーター養成講座でお世話になった堀昌子さん(つなぎや)を訪ね、清水義晴さん(えにし屋)を紹介いただき、指導を受けながらトータルプロセスデザインを作成し、建設課と公民館、そして住民と行政の協働作業が始まりました。

#### 【トータルプロセスデザインワークシート】

テ	マ	行政と一緒に加治川村を考える
テーマ設定の経緯		行政主導型によるまちづくりのいきづまり
目	的	合併前に住民参加型の地域づくりの楽しさ、大切さを知ってもらいたい。 村を愛する人を見つけ出したい。 物だけでない加治川村独自の宝ものを見つめたい。 未来図を農村振興整備事業につなげたい。
●基軸デザイン		(制約条件) ・合併の流れを変えるような場にならない。 (参加の場の具体的目標) ・合併前に住民参加型の地域づくりの大切さを知る(成果) ・広報誌を使って住民へ周知する。 ・農村振興整備事業の提案書を作成する。
●組織デザイン		参加者：住民と役員職員 運営：建設課と公民館職員 コーディネーター：清水義晴さん(えにし屋) 堀 昌子さん(つなぎや) 宮崎道名さん(まちづくり学校)
●プロセスデザイン		(前期)～人づくり～ 1. まちづくり講演会 2. 村の宝もの探し(現状把握) 3. 宝ものをどう活かすか(未来予測) 4. 未来像づくり(未来デザイン) (後期)～計画作成～ 5. 整備事業の説明と現地確認(理念設定) 6. テーマ設定と現状把握 7. 構想図づくり 8. 提案書づくり

#### ●まちづくり講演会

住民が主体となって行うまちづくりの大切さを知ってもらい、まちづくりに向け純粋に加治川村を見つめなおす機会となるように、「私たちの宝もの～まちづくりから地域が変わる～」を演題に、清水義晴さんの講演会を約100人の参加者を得て開催しました。

内容は、清水さんが全国で関わってきた事例を通してのまちづくりの手法、楽しさ、大切さについて講演をいただいた後、村の全図を拡大した地図を会場に貼り、参加者から村の宝ものと思うものを発表し、それを地図に記入していくという方式で行われました。真っ白の用意された地図にたくさんの宝ものかが記入され、書ききれない位のたくさんの宝ものがあり、自分たちの村の豊かさを実感していました。



宝ものを地図に落としつけた講演会の様子

最後に、「まちづくりのきっかけは、小さいことから

ら始める。そして楽しんでやる。すると共感する仲間ができ、大きく育っていく。これからのまちづくりは、住民、行政、企業、学校が手を取り合って活動を展開することでいい答えが出る。」という清水さんの話に参加者全員が大きくうなずく姿が印象的でした。

#### ●私たちの宝ものワークショップ

講演会で地図に記入された宝ものほかに、まだ見つけていない宝ものを発見し、それを活かして村の未来デザインをすることを目的に3回のワークショップを開催しました。講演会でまちづくりに興味をもった24名の方が参加してくれました。

##### 【第1回】まちを知る

歴史を中心に「自然・景観」、「人・伝統」、「産業」、「食」をテーマに4つのグループに分かれ、まち歩きと現地調査を行い、現状の宝ものを確認しました。また、村内でこだわりを持って自然保護、農業、伝統、文化等の活動を取り組んでいる人から、そのこだわりを発表してもらいました。その後、まち歩きで見つけたデータや撮影した写真、聞いた話をもとに、それぞれのグループで「加治川村の宝ものマップ」を作成し、発表しました。

##### 【参加者のふりかえりから】

- ▶村に住んでいるはじめてわかったことが多かった。
- ▶身近にたくさん宝ものがあったことに驚いた。
- ▶加治川村がピカピカに光って見えた。



歴史を知るまち歩き(旧米沢街道)

##### 【第2回】未来を描こう

参加者が4つのグループに分かれ、前回のワークショップで発見した宝ものをもとに、「未来図」をデザインしました。その後、未来図を発表し、お互いの意見の共有を図りました。

##### 【参加者のふりかえりから】

- ▶地域に対する熱い思いを共有できた。
- ▶未来図の実現に向けて自分がまず努力したい。
- ▶みんなの目がキラキラしていて、みんな良い笑顔だったことがうれしかった。

##### 【第3回】自分たちのできること

前回の「未来図」をもとに、「村全体が総合学習の場」、「加治川村の宝 大峰山」、「桜とホテルとコンビニ」をテーマに自分のできること、したいことを考え、実現可能な未来像をグループごとに作成し、発表しました。

##### 【参加者のふりかえりから】

- ▶みんなで考えることで、新しい発見が生まれることがわかった。
- ▶いろいろな目線で村を見ることが大切だと感じた。
- ▶自分の住んでいる所を良くしようと思っていることは、みんな一緒だと思いました。



小学校の先生も参加したワークショップ

#### ●農村振興整備事業ワークショップ

建設課の行う農村振興整備事業で実現するため、私たちの宝ものワークショップで作成した未来図から、具体的なテーマを絞り、構想図さらに村への提案書をまとめることを目的に、ワークショップを引き続き開催しました。地域住民、行政職員のほかに小学校の先生、設計コンサルタントと多種多様な方々が参加しました。

##### 【第1回】目的確認と現状の共有

農村振興整備事業の目的を確認し、これまでのワークショップで作成した未来図から、実現可能な「ホテルの里づくり」と「桜でつなぐロードづくり」にテーマを絞り、2グループに分かれ現状の共有を行い、模造紙や地図にまとめた。

##### 【参加者の意見】

- ▶観光資源が思ったより豊かである。
- ▶観光開発より自然を守ることを考えて行きたい。
- ▶大峰山のゴミを無くしたい。山桜を守りたい。

##### 【第2回】現状把握

第1回で「桜でつなぐロードづくり」をテーマにした区域設定が広すぎたため、「桜ロードづくり」と

「大峰山」の2テーマに分け、3つのテーマで区域を絞った現状把握を行いました。

##### 【参加者の声】

- ▶ホテルの地域は、日本人が見失った豊かな資源が眠っている。四季を通して楽しめる空間を作っていく必要がある。
- ▶大峰山は、開発するより自然環境に留意することを考えていきたい。
- ▶公園を作ることはいつでもできる。自然を作ることは不可能。自然をそのまま活かしたい。

##### 【第3回】未来像を活かした構想図づくり

前回の現状把握をもとに、3つのテーマに分かれ、可能的な将来像を予測し、構想図を描きました。

##### 【参加者の声】

- ▶ホテルの里は、今ある自然を活かした未来づくりだ。夢でなく実現できそうだと感じた。
- ▶話せば、話せば、夢が広がっていくことがわかった。

##### 【第4回】これまでの成果『提案書』をつくらう

現状図、構想図をもとに、「提案の趣旨」、「現状」、「提案内容と注意点」、「期待される効果」をそれぞれ模造紙にまとめました。

##### 【参加者の声】

- ▶みんなで話し合うとこんなに素晴らしいことが考えられた。
- ▶今まで話し合ってきた人たちとの出会いが、今後も続きそう。
- ▶実現可能な限り頑張りたい。住民の力が第一！

#### ◆ワークショップのその後

農村振興整備事業ワークショップで出来上がった「提案書」は、建設課で製本をし、村へ提出しました。残念ながら、実際の整備計画に記載されたものは「ホテルの里づくり」の1プランでした。しかし、桜の里づくりに取り組む人たちが、自分のホームページで大峰山を紹介する蕎麦屋さん、小学校の総合学習の講師となるおじいさんなど、ワークショップに参加した人たちが、自分たちの住む地域の素晴らしさを知り、もっと良くしていこうという気持ちでつながり、自ら手で地域を良くしていこうという活動が生まれました。

建設課では、このワークショップ後に村内のある地区で、それまでの行政主導型をやめ、住民参加による「農村公園づくり」に取り組み、昨年秋季に竣工を迎えました。公園の維持や管理は、地域の人たちが自主的に管理しています。



ワークショップの懇話会を、大峰山で行いました。残念ながら、雨天のため樟平桜樹林はかすんでしまいましたが、みんなの心は快晴だったはず…

公民館では、現在、ワークショップを通じて知り合った人たちと一緒に、地域の自然や文化・伝統を学ぶ体験活動を子どもたちに提供しています。

#### ◆おわりに

市町村合併前に地域を知る、地域の宝を発見する、そしてそれをどう活かしていくかというプログラムで進めたワークショップでしたが、参加された皆さんが立場はそれぞれ違うものの、一生懸命にこの地域のことを考えていることを実感しました。そして何よりも自分自身がこの地域の人、自然、文化の素晴らしさを発見し、また学習することができました。

公民館は、住民の学びの場であるとともに、出会いの場、つながりの場です。そして公民館での学びの活かし方は、地域への還元であり、まさに地域づくりの場と言えるのではないのでしょうか。

これからも、学びの主体である住民の主体的、創造的な学習活動を援助し、公民館が地域の宝ものだとされるような取り組みを進めていきたいと考えています。

みんなで創った地域の未来図